

# 安心と希望の介護ビジョン 在宅緩和ケアの視点から

ケアタウン小平クリニック  
山崎章郎



# WHOの緩和ケアの定義(2002年)

「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、疾患の早期より痛み、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな(霊的な・魂の)問題に関してきちんとした評価をおこない、それが障害とならないように予防したり対処したりすることで、クオリティーオブ・ライフ(生活の質、生命の質)を改善するためのアプローチである。」

# ホスピスで学んだこと

- 症状コントロールの大切さ(WHO方式など)
- インフォームド・コンセントの大切さ
- チームケアの大切さ
- ボランティアとの協働
- 生きる意味を見失ってしまった人びとへのケアの大切さ(スピリチュアルケアの大切さ)
- 在宅ケアの大切さ
- 施設ホスピスの限界
- 在宅ケアの問題

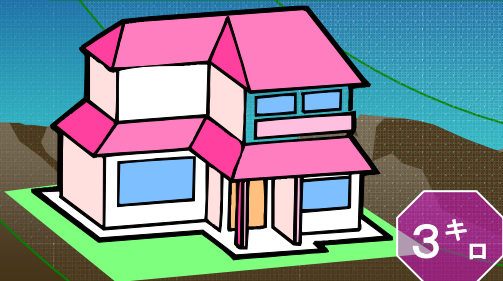
# 安心して暮らせるコミュニティケア

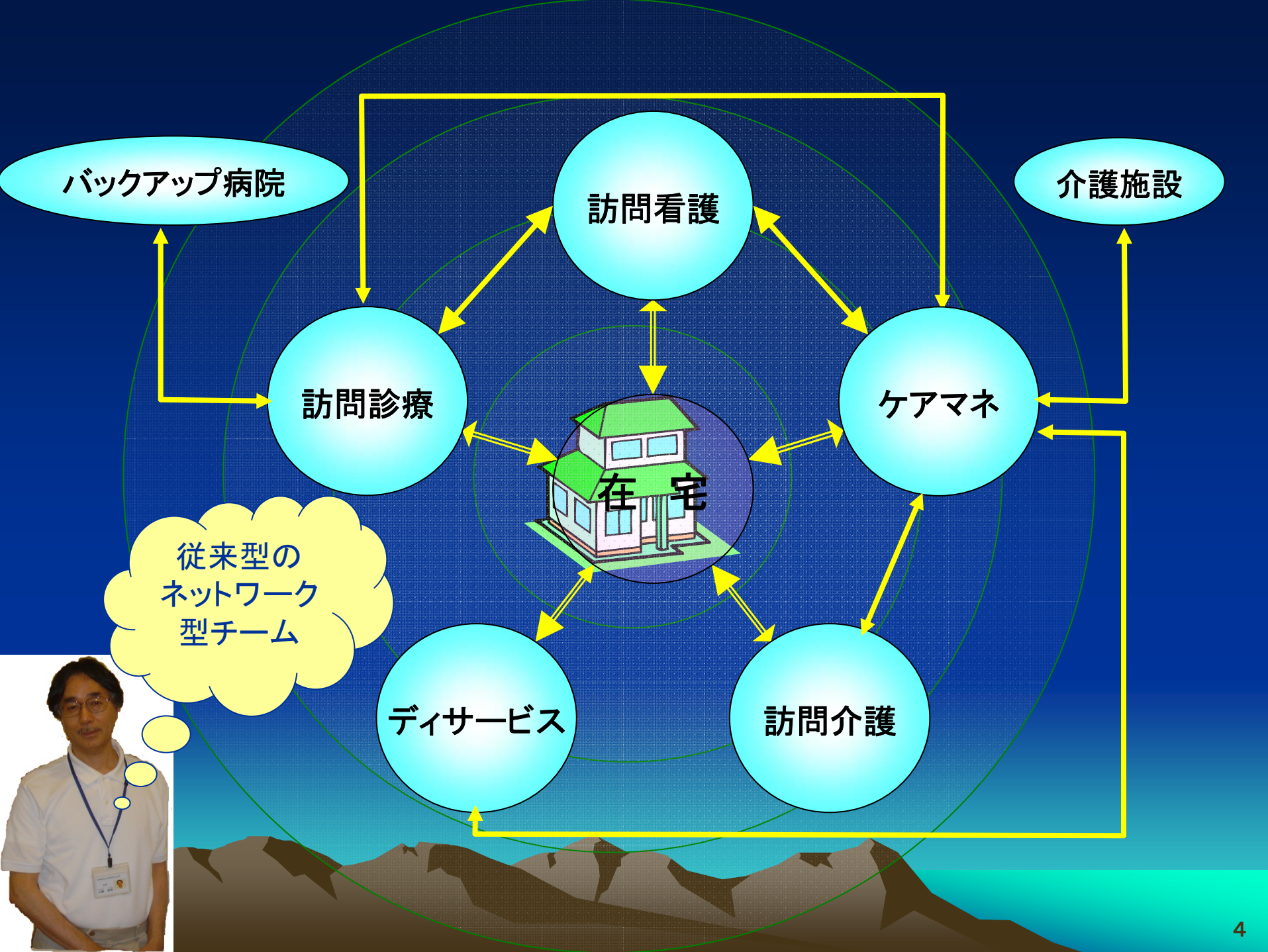
最期まで住みたいコミュニティ

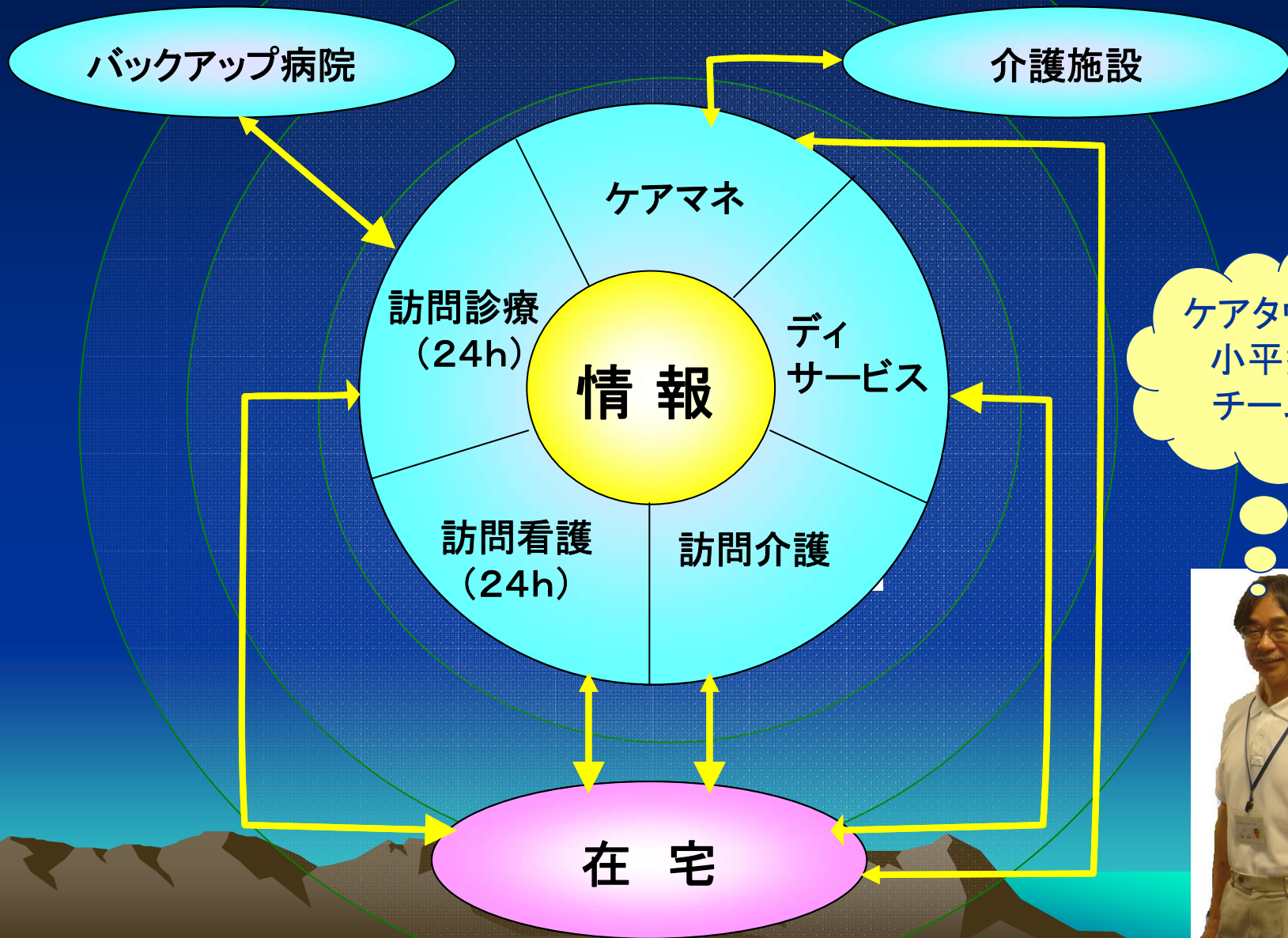


たとえガンの末期であったとしても

最期まで... あなたらしさを支えます ...そのコミュニティのなかで  
尊厳と自立（自律）をもって暮らせることを  
保証するコミュニティである。







ケアタウン  
小平型  
チーム



組織として見た  
ケアタウン小平  
での連携 各事業のつながり

# NPO法人コミュニティケアリンク東京

2階3階賃貸ワンルーム  
いっぷく荘 (21戸)

(有)暁記念交流基金  
(土地建物などの  
資産管理・運用)



ケアタウン小平  
クリニック  
(在宅療養  
支援診療所)

(株)クロスケア  
居宅介護  
支援事業所  
ヘルパー  
ステーション

# ケアタウン小平の特徴

- 運営主体の違う、既存事業体が一ヶ所に集約したチーム。
- 税金の補助や助成を受けていない。
- NPO法人が中核事業体
  - 1: NPO法人理事は無償ボランティア。
  - 2: 現場の収入は現場に返す。
  - 3: 寄付は地域ケアと現場環境の向上に。
  - 4: ボランティアとの協働が要。



2階・3階  
いつぷく荘  
賃貸ワンルーム21戸

2階平面図

食事サービス

ボランティア

子育て支援など

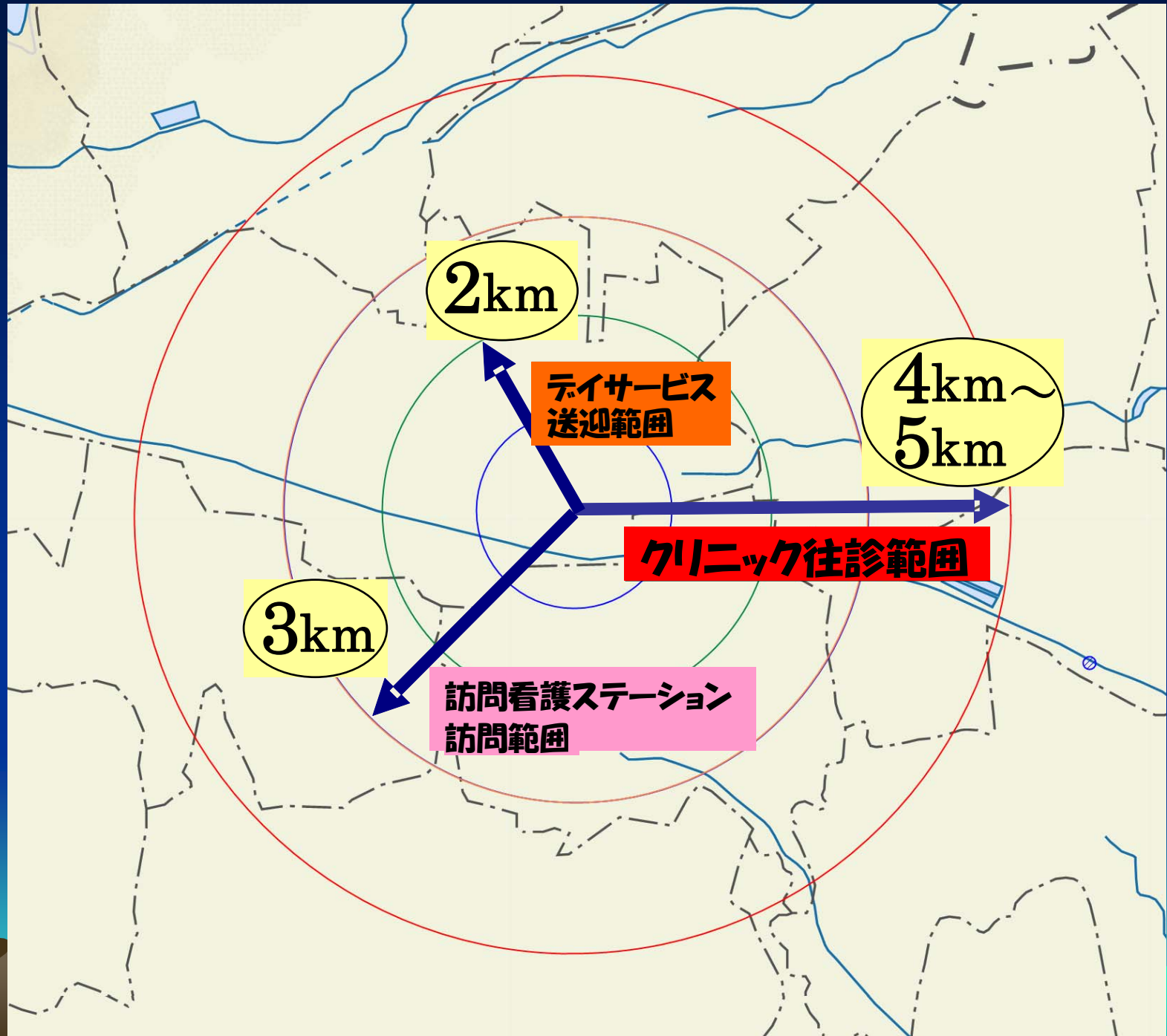
居宅介護支援事業所  
ヘルパーステーション

訪問看護ステーション

デイケア  
リビング  
キッチン  
事務コーナー  
アロマ室

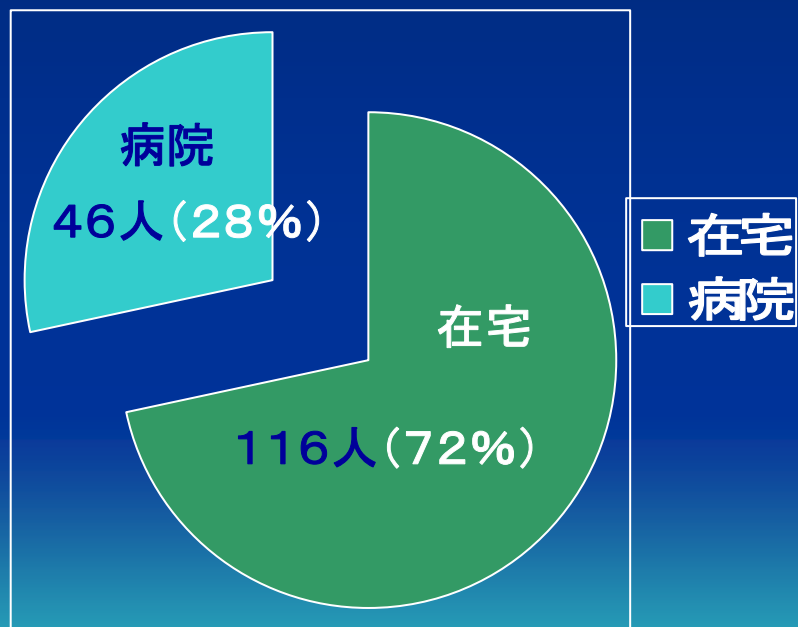
在宅療養支援診療所

1階平面図

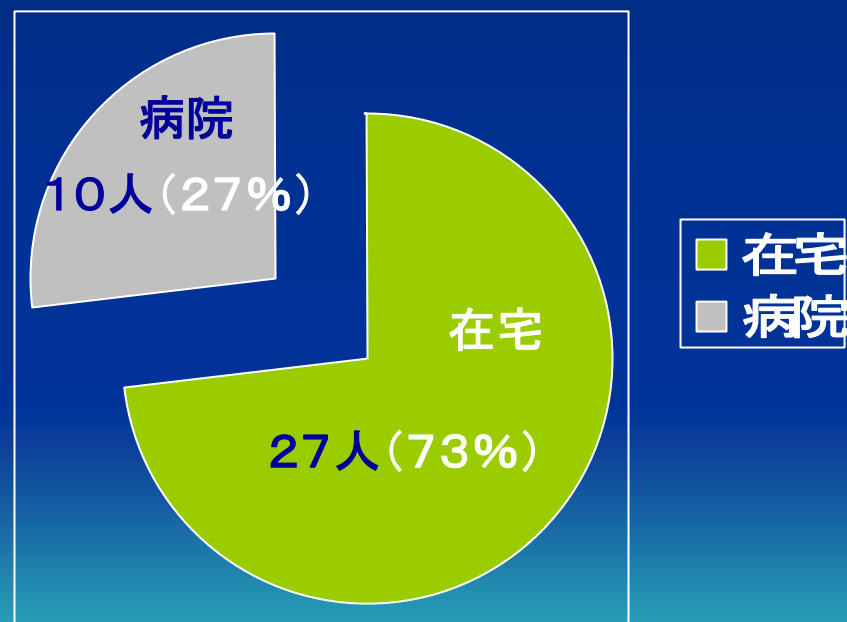


# 死亡患者 死亡場所 内訳

がん患者 162人中



非がん患者 37人中





# 地域在宅ケア(緩和ケア)ネットワーク

- このようなケアタウン小平の医療・介護システムと共に私たちNPO法人コミュニティケアリンク東京は現在下記のような活動を行っております。

豊かな庭づくり事業

地域のボランティア  
育成事業

文化・スポーツ倶楽部事業  
アロマセラピーなど

子育て及び子供の教育  
に関する相談支援事業

食事サービス事業

各種セミナー及び講演会、  
地域交流などの企画、運営事業